

七尾の畠山氏はこゝに鎮を置いた。十年石動山の衆徒が前田利家に抗した時、この堡を興さうとしたが、佐久間盛政の軍に屠られた。越登賀三州志に、『荒山といふも山名也。勝山とは別也。又新山とも書す。云々。一方は射水郡小瀬村領也。此の山の腰を通り芹川村よりの越中道也。是を荒山越といふ。此の荒山より北の方へ高低三十町許登れば石動山也。芝峠といふも此の間也。』と記する。

アラヤマタウゲ 荒山峠 鹿島郡芹川原山分から越中水見郡小瀬に出る國境の峠。高さ三八四米。能登誌に、『芹川村より越中へ越る道をば荒山越といふ。難所にて水見まで五里あり。峠の東の方に、昔石動山般若院等の惡僧の取出の跡あり。』とある。

アラキ 荒井 源平盛衰記壽永二年の條に、『加賀國井家・津播多・荒井云々まで連たり。』とある荒井は荒屋の誤りで、今の河北郡東荒屋であらう。

アラキアツミツ 新井篤光 通稱升平。寛政三年新番となり、四年父白娥の遺知の内二百石を襲いで御儒者に列し、明倫堂助教となつた。篤光雄辯流るゝ如くであつたが、人となり輕躁で學も亦深くなかつた。文化六年歿。

アラキシンペイ 新井晋平 文化六年養父升平篤光の遺知の内百石を受け、同十一年歿した。養子周藏輔徳その後を襲いだ。

アラキスケタカ 新井輔登 字は謙吉、白娥と號した。その父祐勝は元加賀の人であつたが、淺見綱齋に學び、後江戸に住した。白娥幼より聖經を研読し、十九歳にして學程朱に歸した。元文元年帷を神田紺屋町に下して

子弟に教授したが、江戸には萩生徂徠があつて、功名を樹てる餘地がなかつたから、去つて京師に住した。白娥周易を解するに於いて妙を得、古周易經斷等數十部を著して名譽大に揚り、前田治脩の學校を興造するに當り寛政三年七月聘せられて祿三百石を食み、翌四年二月學頭を命ぜられ、別に職俸五十石を賜はり、侯の侍讀を兼ね、三月二日開校の典を擧げた。然るに白娥はこの時既に七十九歳であつたので、五月十四日急に易質した。子孫相繼いで藩に仕へた。

アラキスケノリ 新井輔徳 通稱周藏。字は直。號は思齋。實は興力不破由左衛門の弟であつた。文化十一年十二月養父新井晋平の遺知の内八十石を襲ぎ、後二十石を加へ、出で、昌平殿に學び、天保十年組外に班し、助教に任じたが、同年儒者を除かれ、十二年助教加人となり、十四年九月再び助教本役に復した。人と爲り俊爽にして談論に長じ、家傳の易學に詳しく、慶應三年十一月七十三歳を以て歿した。

アラキヌキナ 荒井實名 金澤の人。通稱和平。正木園と稱し、和歌を以て顯れ、その師專する所は明らかでないが、文化・文政の際古調を以て一旗幟を樹てた。書も亦奇古にして、人目を驚かすものがあつた。

アリアケマル 有明丸 加賀藩の帆船。慶應元年十二月江戸石川島で建造したもの。木造、長さ二十間五尺、幅四間一尺九寸。

アリエ 在江 鹿島郡一青庄に屬する部落。能登名跡志に『在江村に實盛の塚とて古塚あり。言誤りにや。』とある。

アリガタヤマ 有形山 能美郡風嵐の東南

にある。高さ一〇一米。山體侏羅系。

アリガナガハル 有賀長治 直政の子。初め桑四郎、後に桑六と稱した。初め父と共に朝倉義景に仕へて屢戦功があり。加賀寺井の土寇を撃つて首級を得た時には義景から感狀を得た。天正十八年八王子の役に前田利長に従うて奮戦し、利長番を父直政に與へて之を賞した。直政老を告ぐるに及んでその祿を襲いだが、後に故あつて籍を削られ、その終る所を知らぬ。

アリガナホカツ 有賀直一 通稱甚太郎。甚太夫・右近・清右衛門。父は甚兵衛直昌。直一寶曆四年二月晦日生まれ、寛政二年父の歿後祿千六百石を襲ぎ、小松町奉行・御曹請奉行・御細工奉行・御先簡頭に歴任し、文化九年正月廿三日歿した。次子甚六郎政方その後を受けた。

アリガナハル 有賀直治 通稱左京。桑六長治の弟。兄の削籍せられた後數年を経て前田利長に仕へ、大聖寺の役に功を立て、七、百石を食んだ。後高岡町奉行となり、民政に關して績があつた。元和元年歿し、子縫殿助宗俊その後を受けた。

アリガナホマサ 有賀直政 本姓は桑。通稱桑六。美濃の人で、初め越前の朝倉義景に仕へたが、義景の亡後諸子を拉し來つて前田利家に仕へ、祿四千石を食んだ。晩に老を告げ、有賀齋宗元と號した。有賀齋は一に有加齋とも書いてゐる。慶長八年七月三日歿。

アリガナホマサ 有賀直昌 一諱は政明。通稱與十郎。甚平次・右近・内膳・甚兵衛。享保十一年十一月十六日生まれ、寶曆十年十二月十六日父政進の祿を襲ぎ、所口町奉行・御馬

廻番頭等となり、寛政二年正月十一日病歿した。享年六十五。法益後霽齋。

アリガハラ 蟻ヶ原 鹿島郡淺井庄に屬する部落。村名由来番に、慶長四年蟻ヶ原といふ地を新開したに起るとある。

アリガマサテル 有賀政照 通稱林左衛門。左平太。實は大場氏。元祿十六年有賀政寛の祿を襲ぎ、寶永元年病んで歿した。

アリガマサトホ 有賀政通 通稱清太夫。政寛の子。政照の義子となり、寶永元年幼にしてその祿三の一を嗣ぎ、正徳元年前領千六百石に復し、寶曆十年七月十四日歿した。

アリガマサヒロ 有賀政寛 通稱甚六郎。内膳。承應三年父宗俊の祿中千石を襲ぎ、五百石を弟半左衛門に配分した。政寛祿三百石を加ふること二次にして、千六百石に至り、先簡頭・定番頭等に任じ、元祿十六年六月五日歿した。

アリガムネトシ 有賀宗俊 通稱縫殿助。直治の子。元和元年父の祿七百石を襲ぎ、後八百石を加へて千五百石を領し、御小將番頭・御小將頭に歴任し、承應二年歿した。

アリサハアリスダ 有澤有貞 通稱六郎。惣藏・采右衛門。惣藏致貞の子。明和八年新番となつて御近習に勤仕し、安永七年新知百石で組外に列し、天明四年五十石、寛政四年五十石を加へ、九年物頭並に至り、享和二年七月二日歿した。

アリサハサダチカ 有澤貞親 通稱八三郎。平右衛門・幸藏・澤右衛門。命貞の養子。寛政七年養父の遺知二百石を襲ぎ、御馬廻に列し、武具奉行・御近習番・頭並御近習御用等に歴任した。